

パネルディスカッション「当事者の座談会：学生生活とLGBT」¹
(2018年度関学レインボーウィーク)

昨年度に続いて実施された、性的マイノリティの現役生の企画・実施プログラムであるパネルディスカッション「当事者の座談会：学生生活とLGBT」は、5月16日(水)の18時半から図書館ホールで開催された。現役生4名(バイセクシュアル2名、ゲイ1名、トランス女性1名)が登場し、それぞれが当事者であると自覚した時期、周りへのカミングアウトの状況、小中高校時代の生活を振り返ったのち、関学での学生生活の中で経験したこと、感じたこと、考えたことについて語ってくれた。以下にその一部を紹介する。

関学の対応や当事者サークルの存在

1年生の後半に当事者サークルで仲間に出会って、やっと自分のことを話せるようになった。それまでは(学内で)黙っていて、しんどかった。サークルに入ってから楽しい。恵まれていると感じている。

トロントに留学した際にプライドに参加し、日本よりオープンな感じを体験できた。語学学校でゲイのおじさんに出会って相談したら、励まされた。いい経験ができた。

当事者サークルに入って自分以外の当事者に出会って、「自分以外にもいたんだ」ということを実感できた。でもサークル以外だと差別的な発言もあって、しんどい。でも、サークルがあってよかった。

学生証の名前を変えられて、それを外の社会でも活用できてよかった。

¹ 〈動向〉「キャンパスにおける多様性尊重にむけてのソーシャルアクション：第6回関学レインボーウィークを振り返って」(武田文) pp41-45 『関西学院大学 人権研究』第23号(2019年3月発行)の一部を転載

また、大学が健康診断で個別に対応してくれたり、トイレの名称変更を検討したりしてくれて、ありがたいと感じた。関学に合格した際に、人権教育研究室と連絡をとって関学の対応や当事者サークルの情報をもらった。国公立大にも合格したが、その大学に電話で問い合わせたがきちんと対応が確約されていなかったなので、関学を選んだ。

大変だと感じること

差別はまだまだある。卒論で LGBT のことをテーマに書こうとした際に、指導教員に変な研究テーマだという印象を持たれた。自分はバイセクシュアルなのでどっちつかずの意識も持ってしまうけど、そのままでもいいと言ってくれる仲間が支えになっている。

特にない。でも、同性の友だちと恋愛の話のとき適当に答えて大変だった。

トランスジェンダーは本当に大変なことが多い。たとえば、毎月の注射代や手術代をどうするか、いつ手術をするべきかなど。LGB がうらやましい部分がある。LGB と比べると、トランスジェンダーは体の問題がある。だからトランスジェンダーのほう大変だと思ってしまう。

アライについて

アライと「きらきらアライ」がいる。特別視しないで、当たり前として受け入れてほしい。押しつけがましい人はいや。「かわいそう」という目で見られるのはいや。固定観点で見られるのはいや。

アライの人とそんなにかかわったことはないけど、「LGBT を理解している私はえらい」と思っている人はいや。それがきらきらアライ。当事者の人の気持ちを汲み取ってくれる人がいい。キラキラの人も素質があると思うので、そういうようになってほしい。

アライということの名乗らない、知らないけど自分を受け入れてくれる、そういう人いい。きらきらアライも踏み込んできてくれているので、一律拒否するのもどうかとも思う。仲間を増やすことも重要だと思う。

ノンケにももの申す

セクシュアリティに関係なく、好きな人、好きじゃない人がいる。男性女性に分けて考える人は嫌いです。

レズビアンだからこうとかという見方ではなく、その人を見て判断してほしい。決めつけはだめ。そうしたら差別はなくなる。

有名人のおねえ芸人のイメージと LGBT を混同している人が多いけど、一人ひとり違うことを知ってほしい。一人の人間として理解してほしい。特別視してほしくない。

なお、来場者からは以下のような感想をいただいた。

来られてよかったです。正直自分は LGBT に所属するのか、自分でもよく分かっていないです。でもここに参加して、少し安心した、気が楽になった気がしました。

個々の人権のあり方や尊重され方のヒントになりましたし、アライというよりは支援者、理解者、そばに居てあげられる人になりたいと思いました。このような機会がたくさんあれば理解者も増え、理解者のあり方も自然と身について色んな人が共存できる社会になると感じました。

去年も来ました。当事者が話すこの座談会が、レインボーウィークのイベントの中で一番おもしろいと思います。学生の皆さんが、すべて準備されているのですか？それぞれ体験を言語化することに長けておられて、聞き入りました。